



### みんなは野菜のお父さん！お母さん！

こども園に夏野菜の苗を植えました。「何をしてあげたら大きく育つだろう?」「どんなことをしてあげたら、野菜たちは嬉しい気持ちかな?」と子どもたちは小さな野菜の苗を見ながら興味津々です。



「みんなは野菜のお父さんやお母さんみたいだね」と保育者が声をかけると、「野菜のお父さんやお母さんになる!」とさっそくやる気満々で野菜のお世話がスタートしました。「草が生えとるよ。抜いてあげると栄養が野菜に届かないよ」「野菜ものどが乾いているんじゃない?」と暑い日もジョウロに水を入れて畑を往復している子ども、野菜がどうなっているかなと登園後すぐに見に行く子どもなど野菜の生長をみんなで楽しみにしている様子が伺えました。

ある日、キュウリの葉っぱにアブラムシを発見!!「キュウリを助けよう!」と一人の男の子が図鑑で調べてくれました。アブラムシは牛乳で退治できることが分かり、毎日牛乳スプレーをかけてくれました。そのおかげで元気がなかったキュウリは大復活しました。

夏野菜を育てる経験から、みんなで考えたり、話し合ったり、役割ができてきたことに子どもたちの成長を感じることができました。トマト、キュウリ、ナス、トウモロコシ、オクラ、ゴーヤ、ピーマンなどたくさんの立派な夏野菜を収穫することができて、数を数えたり、夏野菜カレーを作って食べたり、野菜スタンプをしたり、収穫後も夏野菜の話題で盛り上がりました。

子どもたちが夏野菜を大切に優しい気持ちで育てたように、一人ひとりの子どもに寄り添い安心感のもとで生活することができるこども園でありたいと思っています。そして、遊びを通して保育者や友達とのかかわりを深める中で、子どもたちのやりたいことや叶えたいことを実現できるような保育を積み重ね、目に見えない“感じる心”を今後も大切にしていきたいと思っています。



### 「未来からの引き算、個性の時代へ～コノヒトカンから始まる物語」



本校では、11月18日(土)に、PTA人権教育講演会を行いました。講師に、一般社団法人コノヒトカン代表理事の三好千尋先生をお迎えして、「未来からの引き算、個性の時代へ～コノヒトカンから始まる物語」という演題で、講演をしていただきました。

三好先生は、コロナ禍において、貧困家庭がさらに深刻化していることを知り、フードロスと貧困問題解決の一助になるようにと、「コノヒトカン」という名前の缶詰を作り、こども食堂や児童養護施設に届ける事業に取り組みました。周囲の人々に反対されながらも、自分が主役になって社会を変えていったコノヒトカンの取組をスィミーの物語にたとえ、たくさんの人々と協力して、困難に負けないで、未来を明るくするために活動することの大切さも同時に教えていただきました。

講演を聴いた保護者からは、「コノヒトカンは、たくさんの人の想いが詰まった『世界一あったかい缶詰』だと分かりました。みんなが幸せになれるように、自分にできることやみんなでできることを、子どもたちと一緒に考えていきたい」というような感想が寄せられました。

保護者と共に講演を聞いていた児童からは、「私もSDGsを身近なことからしていきたいです」「古城池高校の人から教えてもらっていたけど、自分も応援したくなりました」といった、積極的な取組の期待できる感想もありました。

この講演が、保護者の方々や子どもたちと「世界をよりよくするために、自分にできることは何だろう」と、考えていくことのできる第一歩となることと思います。

### 第3回 人生を豊かにするこころ学 10月18日(水)

#### 「介護・看取りを考える～妻を14年間介護した経験からの問題提起」



元日本福祉大学教授 磯部 作氏

#### 《参加者の感想》

- ♡実体験の話を開けてよかったです。現実はなかなか難しくできないことが多いですが、「介護の心得」を参考に前向きにやっていたいと思いました。
- ♡「ありがとう」という言葉が表現できるよう、ともに手を取り合って生きていこうと思いました。
- ♡亡くなった母の看取りを思い出しました。これから、私と妻のどちらが先に具合が悪くなるか分かりませんが、僕が元気だったら、妻の世話をできるだけ寄り添ってあげたいです。

「介護、介護者ともに、助などの充実を。公共施設などに連れて行く地域も福祉避難所などを安らぐ死者51人のうち、以上。また、36.5%支援者。」



### 第4回 人生を豊かにするこころ学 11月9日(木)

#### 「ヤングケアラーってなあに?～ケアが必要な親・きょうだいと暮らしてきた子どもの立場から～」

最近よく聞くようになった「ヤングケアラー」という言葉。自らの体験に基づいた具体的で分かりやすいお話で、ケアラーとして生きる子どもや若者の実情、関わり方や支え方についてかなり理解が深まったと思います。また、ケアラーを苦しめるのも楽にするのも周囲の人々であることから、子どもや若者を取りまく地域社会の大切さを改めて認識しました。



任意団体 K& 代表 冠野 真弓氏

#### 《参加者の感想》

- ♡ヤングケアラーについて、「困っているのなら早く大人に助けを求めたいのに…」くらい知識がなかったです。経験された人の話は、奥深くでずっしりと心に響きました。
- ♡視点が広がりました。元気に生きていること、それがありがたい。先生の素晴らしい生き方を応援したいと思いました。
- ♡「あなたを必要としている人は、目の前にいる」という言葉が強く印象に残りました。この言葉をもとに、今後丁寧に人間関係をつくるよう努めたいと思います。



### 第5回 人生を豊かにするこころ学 12月9日(土)

#### 「『ご近所関係』を防災・減災の仕組みに」

データに基づいた災害リスクの解説や真備町や第五福田小学区の取組の様子について話していただき、災害に備えるということは日々の積み重ねが大切であることを再認識する機会となりました。また、地域づくりをすることこそが、最大の防災・減災の備えとなることも教えていただきました。最後には、磯打氏のゼミ生である水島地区出身の田中さんのお話も聞きました。お二人のお話には、社会的弱者を置き去りにしない地域社会をつくるためのヒントがたくさん含まれていました。



香川大学地域強靱化研究センター 特命准教授 磯打千雅子氏

#### 《参加者の感想》

- ♡地域のつながりが防災を考える際のきっかけになることをお聞きして、地域・近所の関係性を大切にしていきたいと思いました。
- ♡いつもの生活に慣れてしまっているのを、改めて身の回りを確かめてみたいと思いました。お隣の方と久しぶりに挨拶をしなければと思います。
- ♡難しいことだけれど、皆のつながりが一番。そして、やる気だと思います。他人事ではないということをも頭に入れて生活したいし、知人に伝えることも必要だと思いました。



ゼミ生の田中さん

#### 人権作文

### 「どんなことでも全力で」

倉敷市立第四福田小学校 6年 山本 小夏

私には、好きなこと、得意なことあれば、嫌なこと、苦手なこともあります。今まで、色々な人と関わってきた中から、私は、どんなことでも、全力でがんばることを大切に学びました。

私は、体育が苦手でした。それで、「どうせ、できない」と、あきらめてしまうことが多々ありました。でも、パラアリー選手の大江さんの講演を聞いて、その考えが変わりました。大江選手は右半身がまひしていて、アリーチェリーどころか、いつも通りの生活をおくることすら難しい状態なのに、パラアリーチェリーの現えき選手として活やくしているというにおどろき、そして、強く尊敬しました。体が不自由な人でも、全力でがんばって、結果を出しているのに、自分ががんばらないのはだめだと思い、最近では、苦手なことでも積極的にがんばろうと思っています。

でも、「体が不自由だから」大江さんの努力がすばらしいのではなく、どんな体や環境であろうとも、よい結果を出すことを目標にあきらめず努力することが、とても大切なことであると思いました。だから、私は、大江さんを心から尊敬することができました。

大江さんの話を聞いて、難しいなと思うことがあっても、不自由だと思うことがあっても、それを言い訳にせず、自分と向き合えること、すばらしさを改めて知ることができました。

私は、これからは、困難にも負けず、色々なことに挑戦することのできる機会があると思います。その度に、大江さんから学んだことを思い出して、どんなことでも、全力でがんばっていききたいと思います。

